

講義名	対1)教養特講 (災害と観光を考える)			授業形態	
担当教員	辻本 千春 / 辻本 千春		開講期・曜日・時限	前期 金曜日 5 時限	
	単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング

主題と概要

災害という言葉の意味、定義は「天災や事故などによって人命や社会に被害を及ぼすこと」です。「災害」と聞くと天災をイメージする人が多いと思いますが、自然災害、人為災害、特殊災害の大きく3種類にわかれます。日本は災害の多い国として知られています。台風、地震、大雨等多くの災害があります。また、いつ起きるか分からない事故や事件に巻き込まれる場合もあります。観光や旅行中にそれらの場面に遭遇した場合にどのように対処すればいいでしょうか。また、外国人観光客が滞在中に遭遇したらどうしているのでしょうか。みんなで議論をしながら考えていきます。この講義では、広義の災害のうち観光に関わる災害や事故に対するリスクマネジメントについても詳しく学びます。観光や旅行にも役立ちます。

到達目標

a. 知識・理解 ・観光の定義について説明できるようになる。
・観光と災害の関係について説明できるようになる。

b. 思考・判断 ・観光におけるリスクマネジメントについて理解することができるようになる。

c. 関心・意欲 ・外国人観光客の日本旅行中の災害等に関する対処法を考えることができるようになる。

d. 技能・技術 ・観光産業に進む場合は、どういった視点を持ってはよいかが理解できるようになる。

e. その他 ・学んだ知識を実際に役立たせることができるようになる。

提出課題

- ・毎回、授業内容の振り返り(レポート)を書いてもらいます。
- ・授業内容から、あるいは自分の考えを整理してまとめて提出してください。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

- ・課題の回答から読み取れる皆さんからの疑問や誤った理解に対して、次週の授業のはじめに解説・修正します。
- ・質問欄に書かれた質問に対する答えも回答します。

評価の基準

- ・毎回の課題、レポート提出状況50%、期末テスト(または期末レポート)50%とし、総合的に判断します。授業回数の3分の1(5回)以上課題、レポート提出がない場合は単位は取得できません。
- ・欠席は減点対象となります。

履修にあたっての注意・助言他

- ・授業で学ぶ基本は重要ですが、観光に関する情報は日々変化しますので、常に新聞等で新しい観光の情報も入手してください。
- ・基本は教科書に沿って授業を進めます。

教科書	.使用しない。				
参考図書	.なし。				

その他

- ・必要に応じて配布します。
- ・参考文献・・・必要があれば紹介します。

授業計画

第1回 はじめに(授業計画、授業の目的、進め方など)観光の現状

第2回 災害とリスクの定義

第3回 災害の種類とリスクの考え方を学ぶ

第4回 観光とコロナ

第5回 観光と災害

第6回 観光と災害からの復興

第7回 旅行とリスクマネジメント

第8回 移動中のリスク、機中での問題

第9回 現地行動中のリスク

第10回 旅行とリスクマネジメント

第11回 観光産業と災害

第12回 観光政策

第13回 観光産業と災害

第14回 旅行会社の対応

第15回 観光産業と災害

第16回 情報発信

第17回 滞在外国人と災害

第18回 滞在外国人と訪日外国人観光客への対応

第19回 これからの観光

第20回 アフターコロナ、WITHコロナ

第21回 これからの観光

第22回 オールシーズンリズムとアンダーツーリズム

第23回 これからの観光

第24回 SDGsと観光、レスポンスフルツーリズム

第25回 まとめ

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・授業で学んだ内容のポイントを整理してまとめてください。2時間程度
- ・予習として、次回の授業範囲をよく読み内容を調べて整理してください。 2時間程度
- ・観光に関する情報は日々新しくなっていますので、教科書以外にも新聞やメディアのニュースを積極的に読んで入手してください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養特講科目は、生涯を通じて学ぶにあたっての基礎を築き、社会経済環境の変化に応じた教養を養う科目群で、専門分野・領域にとらわれず時機に応じて開講している。この授業は観光についての理論的な学びと観光産業についての学びを含んでいる。国内観光だけでなく国際観光も変化し、特にインバウンドの目覚ましい伸びがあり、その中でも観光の変化が大きく変わっている。この授業では、観光及び観光関連産業が災害とどのように対応しているかを学ぶ。

このことを通じて、全学共通のディプロマポリシーの次の項目の達成に役立つ。

- ・ 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)
- ・ 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)
- ・ 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レスポンスを活用する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり

- ・近畿日本ツーリスト株式会社において、主に海外旅行プログラムのソリュ、ション営業、つまり個人旅行ではなく組織や団体の問題を解決するための企画を約30年間担当しました。その間に身につけた知識や情報その入手方法を改めて、旅行企画や観光、観光事業における具体的な内容を講義するとともに、退社後に大学院で学んだ「観光による地域活性化」について一緒に考えます。また、タイのバンコクでの4年間の滞在経験をもとに、海外で働くことの意義や海外から日本を見ることの大切さも伝えます。

備考

- ・この科目は観光と災害、観光・旅行のリスクマネジメントについて学ぶため、実際の日常にも役立つことが多いので授業を楽しんでもらいたい。